

4. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

* シャッター速度が速いと、ズームする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28~105mm レンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約1秒かかりますので、シャッター速度を2秒以上に設定しないと28mm~105mmまでのズームはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーム終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が2つできることになります。

* ズーム比をあまり大きくすると、全体にまぼろしの悪い写真になりやすいのでご注意ください。

* 露光間ズームモードでは、パワーズームの最大速度でズームを行ないます。

* 露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

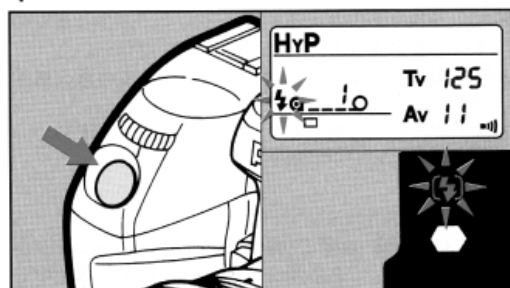
マニュアル露光間ズームについて

Z-1は、**[PF]**設定で「露光中のパワーズームが可能」に設定してある場合(92ページ)は、露光中でも、撮影者が自由にパワーズームで焦点距離を変えることができます。ズーム速度やタイミングを自分で調整できますので、工夫次第で面白い写真を作れるでしょう。

* マニュアル露光間ズームを行なうときは、オートズームスイッチを**[P]**(一部のレンズでは**[PZ]**)に戻してください。(通常のパワーズームで使う状態にします。)

(8)内蔵ストロボを使います

1

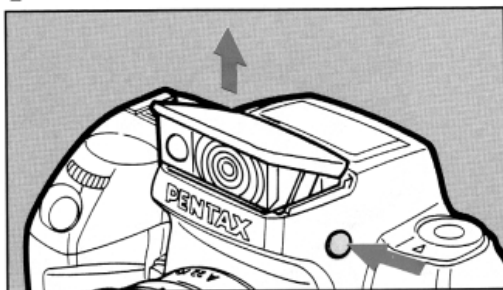


Z-1の内蔵ストロボは、周りが暗いときや、逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイパープログラム自動露出にし、シャッターボタンを半押しします。

* 周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルの**[⚡]**とファインダー内の**[F]**が点滅して、ストロボの使用を勧めます。

2



2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。

* 充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに**[⚡]**が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも**[F]**が表示されます。

* カメラのフォーカスモードレバーが**[SERVO]**になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。フォーカスモードレバーが**[SINGLE]**の場合は、ピント合わせが終了してフォーカスロックされるまでストロボは充電されません。

* **[PF]**設定で、ストロボ充電中のレリーズを禁止することができます。(89ページ参照)



3. シャッターボタンを押し切ってストロボ撮影をします。

* シャッター速度は、1/250秒～1/15秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)

* 撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

シャッター優先自動露出を使うとき

速い速度の被写体の動きを止めたいときなどに、1/250秒以下のシャッター速度を自由に調節してストロボ撮影ができます。

シャッター優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* ハイパープログラム自動露出からTvダイレクトダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

* **PF** 設定で、自動シフトしないにすると、シャッター速度は1/250秒～30秒まで設定できます。

応用的な使い方

81

絞り優先自動露出、マニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

* シャッター速度は、1/250秒～1/15秒まで変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)

* ハイパープログラム自動露出からAvダイレクトダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値は、シャッター速度が変化できる範囲で、ご使用レンズの焦点距離によっても異なります。

* **PF** 設定で、自動シフトしないにすると絞りは開放から最小絞りまで設定できます。

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安 $GN \div \text{使用絞り}$
 近距離側の目安 遠距離側目安 $\div 4.9$
 ただし、0.7m以下の距離では使えません。

* GN = ガイドナンバー

撮影距離から使用絞りを計算します

$GN \div \text{撮影距離} = \text{使用絞り}$

計算で出た数字が「3」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方(2.8)にします。

なお、GNは使用するフィルム感度(ISO)により下の表のようになります。

ISO25 → GN 7	ISO200 → GN 20
ISO50 → GN 10	ISO400 → GN 28
ISO100 → GN 14	

ここでISO100のフィルムを絞りF3.5で使うときの例をあげます。

ストロボの撮影距離範囲を計算します。

$$GN 14 \div F 3.5 = 4$$

$$4 \div 4.9 = \text{約} 0.8$$

従って、約0.8mから4mの範囲でストロボが使えます。

日中シンクロについて

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

低速シンクロについて

1. ハイパープログラム自動露出の状態、Tvダイレクトダイヤルを回してシャッター優先自動露出にします。

*すでにシャッター優先自動露出になっているときは、そのまま結構ですが、表示パネルとファインダー内の絞り値が点滅をしていると適正露出が得られませんので、点滅をなくしてください。

2. 好みのシャッター速度を選びます。

3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。

4. 撮影します。

*低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

*ハイパーマニュアル露出でも低速シンクロが行えます。

AFスポットビームについて

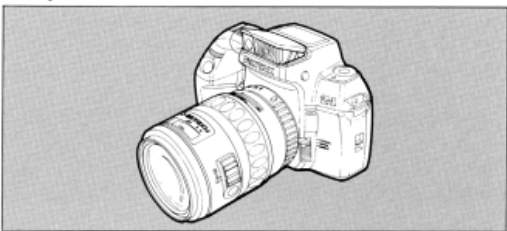
暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光(AFスポットビーム)を自動的に投光して約1~4mの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

*AFスポットビームは、KAF2およびKAFマウントレンズおよびAFアダプター1.7×を使用して、AFシングルのときのみ働きます。

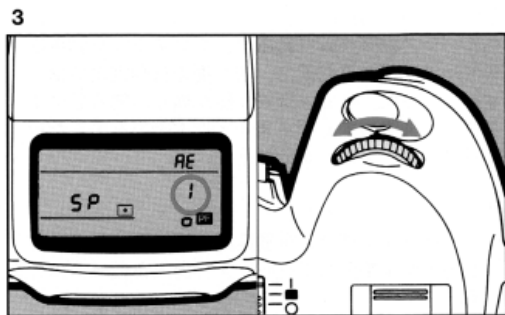
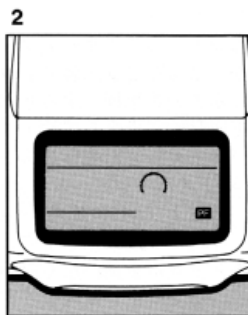
*ストロボを使いたくないときは、ピントが合ったところでフォーカスロックをしたまま、内蔵ストロボを収納してください。

*AF330FTZなど、外付けストロボのAFスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのAFスポットビームは動きません。

*明るいところでは、AFスポットビームは作動しません。



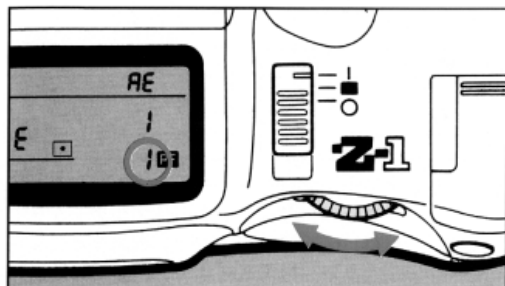
(9) PF ペンタックスファンクション



Z-1には、使用目的に合わせてユーザー自身がカメラの機能を選択できる、18項目からなるペンタックスファンクション機能があります。

ペンタックスファンクションの設定方法

1. モードダイヤルを **PF** に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回し、図のように **① --- ②** 表示を消して、モードセットボタンから指を離してください。
3. Tvダイレクトダイヤルを回して、設定したいファンクションナンバーを選択してください。

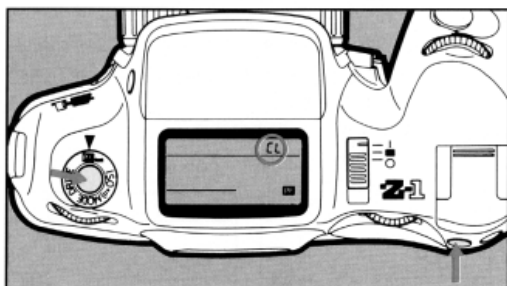


4. Avダイレクトダイヤルを回して、ファンクションの内容を選択してください。

* ファンクションの内容は、数字の「0」「1」を選択する方式になっていますが、ファンクションナンバーによって、3択あるいは4択になっているものがあります。詳しくは、各ファンクションナンバーの説明をご覧ください。

* 工場出荷時は、ファンクション内容がすべて初期値(0)になっています。

* **PF** 設定後、モードダイヤルを回して、**PF**以外に合わせてください。



※ **PF**ペンタックスファンクションを初期状態に戻します。

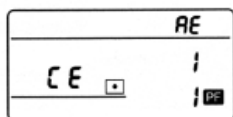
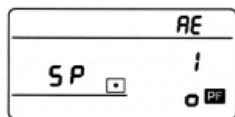
モードダイヤルを **PF** にして、モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルで **Q---** 表示を消します。モードセットボタンを押したまま **IF** ボタンを約2秒間押し続けると、表示パネルに **CL** が表示されて **PF** の設定が初期状態に戻ります。

① スポット測光・中央重点測光の選択

内容：8分割測光から測光モード切り替えボタンで、測光モードを切り替えたときのカメラの測光モードを選択します。初期値はスポット測光になっています。

選択肢：**0**=スポット測光にする。

1=中央重点測光にする。

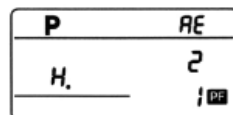
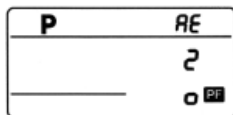


② プログラムラインの選択

内容：プログラム・ハイパープログラム自動露出時のプログラムラインを選択します。初期値はノーマルプログラムラインになっています。

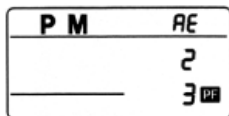
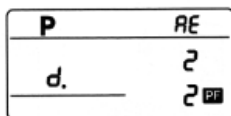
選択肢：**0**=ノーマルプログラムライン

1=高速優先プログラムライン



2=深度優先プログラムライン

3=MTF優先プログラムライン



備考：* ノーマルプログラムラインは基本となるプログラム自動露出です。各プログラムラインは116ページのプログラム線図を参照してください。(MTFプログラムラインはレンズによって線図が異なり、使用するFAレンズ内にその情報が記録されています。)

* 高速優先プログラムラインはなるべく速いシャッター速度が切れるよう高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。

* 深度優先プログラムはなるべく絞りを絞り込んで撮影できるように小絞りを優先したプログラム自動露出です。

* MTF優先プログラムラインはFAレンズと組み合わせたときに有効で、使用するレンズの性能が最も良くなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。

* 電源スイッチが **■** では、常にノーマルプログラムラインになります。

③露出補正の設定ステップの選択

内 容：露出補正の設定ステップを0.3EVにするか0.5EVにするかを選択します。初期値は0.3EVステップです。

選択肢：0=0.3EVステップにする。
1=0.5EVステップにする。

AE		
0.3	3	PF

AE		
0.5	3	PF

④シャッター速度設定ステップの選択

内 容：シャッター速度のステップを1EVにするか、0.5EVにするかを選択します。初期値は1EVステップです。

選択肢：0=1EVステップにする。
1=0.5EVステップにする。

AE		
1	Tv 4	PF

AE		
0.5	Tv 4	PF

⑤ハイパープログラム時にTvおよびAvの自動シフトの選択

内 容：ハイパープログラム自動露出で使用时、ハイパー機能で設定したシャッター速度または絞り値が連動範囲を超えたときにTv（シャッター速度）あるいはAv（絞り値）を自動的にシフトして適正露出を得るようにするか、シフトしないで警告表示を出す（この場合は適正露出にはなりません）かを選択します。初期値は「自動シフトする」になっています。

選択肢：0=TvおよびAvを自動的にシフトする。
1=自動シフトをしないで、警告表示をする。

HyP AE		
AS	Tv 5	PF
	Av	PF

HyP AE		
	Tv 5	PF
	Av	PF

⑥ハイパーマニュアル時にIFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：レンズ絞りをA位置にしてハイパーマニュアルで使用时、IFボタンを押して適正露出を得るときの機能を選択します。初期値はプログラムライン上になっています。

選択肢：0=プログラムライン上の適正露出値を得ます。

1=Av（絞り値）を固定して、Tv（シャッター速度）をシフトして適正露出を得ます。

2=Tv（シャッター速度）を固定して、Av（絞り値）をシフトして適正露出を得ます。

Hy	M	AE
P		6
		PF

Hy	M	AE
E 5		6
		PF

Hy	M	AE
E E		6
		2 PF

⑦ハイパーマニュアル時のTv・Avセット機能の選択

内 容：ハイパーマニュアルで使用时、IFボタンを押して適正露出を得る際にTv（シャッター速度）およびAv（絞り）の値を、ステップごとにシフトするか、無段階にシフトするかを選択します。初期値はステップごとにシフトするようになっています。

選択肢：0=ステップごとにTv値およびAv値をシフトします。

1=無段階にTv値およびAv値をシフトします。

Hy	M	AE
S.		7
		PF

Hy	M	AE
P.		7
		PF

⑧フィルムローディング時のフィルム感度設定の選択

内 容：フィルムを入れて、ローディングを行なったときに、フィルムの感度（ISO）設定をDXによる自動読み込みを優先するか、ユーザーによるマニュアル設定を優先するかを選択します。初期値は「DXによる自動読み込みを優先」になっています。

選択肢：0=Dxによるフィルム感度(ISO)自動設定を優先する。

1=ユーザー設定によるフィルム感度(ISO)を優先する。

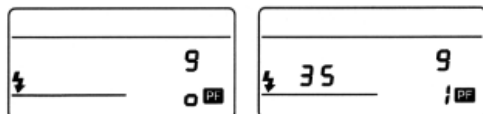


⑨内蔵ストロボの発光選択

内容：内蔵ストロボの不適切レンズを使用した場合に、警告表示のみで発光はさせるか、ストロボの発光を禁止するかを選択します。初期値は「警告表示のみで発光する」になっています。

選択肢：0=発光させる。

1=発光を禁止する。



⑩内蔵ストロボ未充電時のリリース優先順位の選択

内容：内蔵ストロボの充電する前にシャッターボタンを押して切っても、シャッターが切れる(リリースできる)ようにするか、内蔵ストロボの充電が完了するまでシャッターが切れない(リリースロック)ようにするかを選択します。初期値は「リリースを可能にする」になっています。

選択肢：0=内蔵ストロボ充電中でもリリースを可能にする。

1=内蔵ストロボが充電するまでリリースを禁止する。



※ペンタックスファクションの⑨と⑩の両方を1に設定した場合、内蔵ストロボ不適切レンズ使用時に内蔵ストロボを使おうとすると、シャッターが切れません。(リリースロック)

⑪フィルム巻き戻し完了時状態の選択

内容：フィルム巻き戻し完了時に、フィルムのリーダー(先端)部分をパトローネに巻き込むか、若干残すかを選択します。初期値は「完全に巻き込む」になっています。

選択肢：0=フィルムを完全にパトローネへ巻き込む。

1=フィルムのリーダー部分を若干残す。



⑫フィルム終了時の機能選択

内容：フィルムの最後まで撮影したときに、自動的に巻き戻しを行なうか、途中巻き戻しと同様に手動で巻き戻しを開始するかを選択します。初期値は「自動巻き戻しする」になっています。

選択肢：0=自動的に巻き戻しを開始する。

1=手動で巻き戻しを開始する。



備考：1に設定した場合、フィルムの最後まで撮り終わると表示パネルの枚数表示とフィルム給送マークが点滅状態になり、フィルムの巻き戻し操作以外ではできなくなります。フィルムを巻き戻すには「途中巻き戻し」(21ページ)と同じ操作をします。

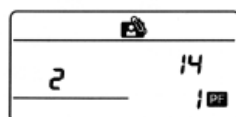
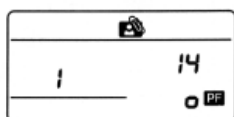
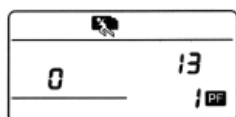
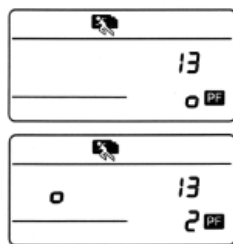
⑬ イメージサイズ指定モードの像倍率の初期データの選択

内 容：イメージサイズ指定モードで、新たにイメージサイズ（撮影倍率）を記憶させる前の初期倍率データを選択します。初期値は「前回のデータを優先する」になっています。

選択肢： **0** = 前に記憶したイメージサイズを初期倍率に設定する。

1 = 人物撮影時に、全身が画面内に入るよう初期倍率を設定する。

2 = 人物撮影時に、上半身が画面内に入るよう初期倍率を設定する。



備 考：* 設定した初期倍率データが有効になるのは、電源スイッチを入れ直したときです。

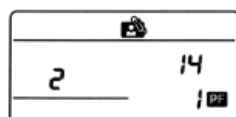
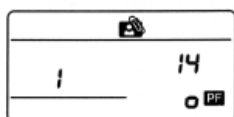
* **0** を選択した場合、電池を入れ替えると前回のデータが失われ、初期倍率データは **2** の設定と同様「上半身が画面内に入る倍率」になります。

⑭ ズームクリップモードの記憶箇所の選択

内 容：ズームクリップモードで、焦点距離の記憶する箇所を1つにするか、2つにするかを選択します。初期値は「記憶は1箇所」になっています。

選択肢： **0** = 焦点距離の記憶は1箇所にする。

1 = 焦点距離の記憶を2箇所にする。

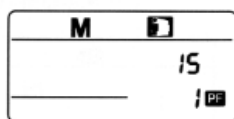
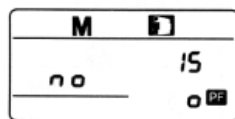


⑮ 露光中のパワーズーム作動の選択

内 容：シャッターボタンを押し切って、露光中（シャッターが開いている間）にズームリングを回してパワーズームを作動できるようにするか、露光中はパワーズームの作動をさせないかを選択します。初期値は「パワーズームの作動をさせない」になっています。

選択肢： **0** = 露光中はズームリングによるパワーズームの作動を禁止する。

1 = 露光中でもズームリングによるパワーズームの作動を許可する。

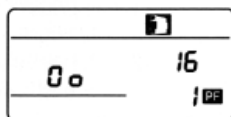
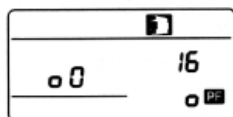


⑯ 露光間ズームモードのズーミング方向の選択

内 容：露光間ズームモードを使用時に、広角側から望遠側にオートズームをするのか、望遠側から広角側にオートズームをするかを選択します。初期値は「広角側から望遠側にオートズームする」になっています。

選択肢： **0** = 広角側から望遠側にオートズームする。

1 = 望遠側から広角側にオートズームする。



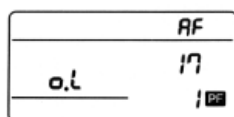
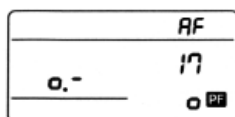
備 考： **1** を選択した場合、露光中にズームリングによってパワーズームを作動させる場合は、レンズのオートズームスイッチを **P** にしてください。

⑪ ML ボタンの機能選択

内容：フォーカスモードレバーが「**SINGLE**」のとき、**ML** ボタンを押してオートフォーカス作動（合焦後、フォーカスロック）させてから露出値を固定するか、露出値のみ固定するかを選択します。初期値は「露出値のみ固定する」になっています。

選択肢：0 = **ML** ボタンを押すと露出値のみ固定する。

1 = **ML** ボタンを押すとオートフォーカスが作動し、フォーカスロックすると共に露出値を固定する。

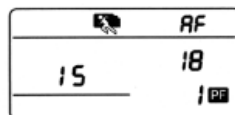
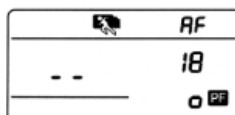


⑫ イメージサイズ指定モード時のリリース優先の選択

内容：フォーカスモードレバーを「**SINGLE**」でイメージサイズ指定モードを使ったときに、シャッターボタンを押し切っている場合、ピントが合ってからイメージサイズが一定になるのを待たずにシャッターが切れるようにするか、ズーミングが終わってイメージサイズが一定になるまでシャッターが切れないようにするかを選択します。初期値は「シャッターが切れる」になっています。

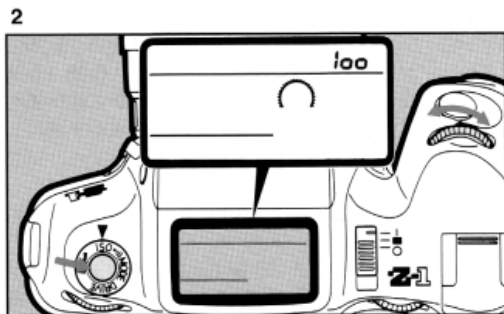
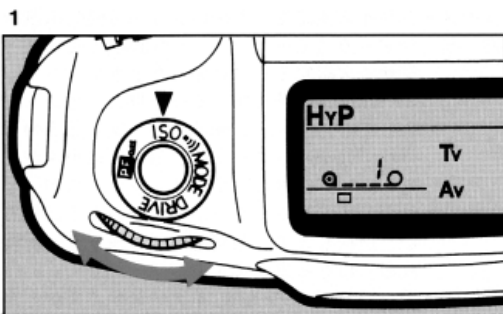
選択肢：0 = ピントが合えば、イメージサイズが一定になるのを待たずにシャッターが切れる。

1 = イメージサイズが一定になるのを待ってシャッターが切れる。



応用的な使い方

(10) フィルム感度(ISO)のマニュアル設定



応用的な使い方

Z-1 は、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができますが、撮影者が任意に感度設定を変えることができます。

また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。

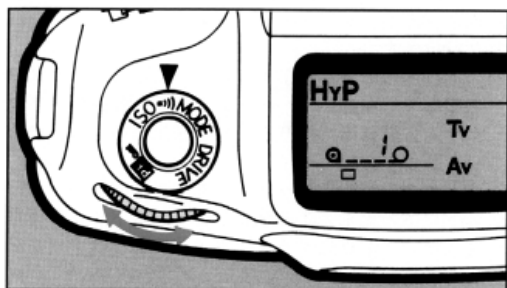
* **PF** 設定により、ISO感度のマニュアル設定をDXコードによる自動読み取りよりも優先させることができます。

変更方法

1. モードダイヤルを **ISO** に合わせます。
 2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。
- * モードダイヤルを **ISO** に合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度 (ISO) が表示パネルに表示されます。
- * DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルに **ISO** が出て知らせます。
- * DXコードの付いていないフィルムを使用したときは、前回設定されたISO感度になります。

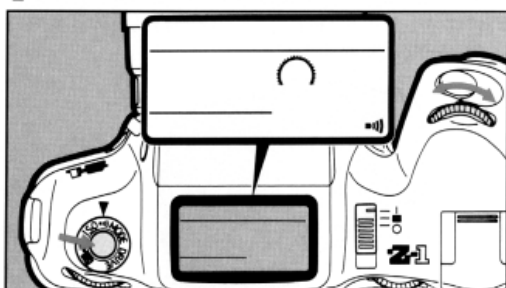
(11)電子音を消すには

1



Z-1は、ピントが合ったときやセルフタイマー作動時に電子音が鳴りますが、撮影時に電子音を鳴らしたくない場合には電子音を消すことができます。

2



変更方法

1. モードダイヤルを  に合わせます。
 2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルの  を消します。
- * 電子音を出す場合には、同様の操作で表示パネルに  を出してください。

応用的な使い方

95

(12)外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボではパワーが足りないときは、外付けストロボを利用してください。(結婚披露宴やパーティーなどで便利です)



応用的な使い方

TTLオートモード付きストロボを使います

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
 2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードはハイプログラム自動露出、プログラム自動露出、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
 3. ストロボの電源スイッチを入れます。
 4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の  が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
- * 充電が完了すると、シャッター速度は周りの明るさによって、1/250秒～1/15秒に切り替わります。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。(FAおよびFレンズのみ)
5. ピントを合わせて撮影します。
- * カメラの露出モードがシャッター優先自動露出、ハイバーマニュアル露出のときは、低速シンクロ撮影(83ページ参照)が可能です。

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	注1
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○	
ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。(注2)	注3	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。		○			

TYPE A：内蔵ストロボ

TYPE B：AF330FTZ

TYPE C：AF400FTZ、AF240FT

TYPE D：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C

TYPE E：AF200SA、AF200S、AF160、AF140

注1：AF200SAのみ自動セット可能。

注2：1/125秒以下になります。

注3：TYPE BまたはCストロボと組み合わせて後幕シンクロ可能。

その他のストロボを使用した場合

* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

* 旧タイプの「AF140」や「AF160」および「AF200S」を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。

AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。
- 光量比制御モードがご利用できます。(99ページ参照)
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します(1/250秒から1/60秒)ので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 外光オート(赤・緑・黄位置)で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒~1/60秒に変化します。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

(ISO 100の場合)

ストロボ撮影(使用上)の注意

- 1) TYPE Dのストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)を使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りでご使用ください。
- 2) 内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて使用すると、充電完了した外付けストロボの機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対してAF330FTZは2になります。

1. AF330FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。

2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

* AF330FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーの「ホットシューアダプターF」(2個)と「延長コードF5P」をご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度が1/60秒になりますが、ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出、ハイパープログラム自動露出からのシャッター優先自動露出では、1/60秒以下のシャッター速度も設定できます。

応用的な使い
方

(13)アクセサリーについて

1) 専用アクセサリー(別売)

Z-1には、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、カタログ等をご覧ください。

● ケーブルスイッチF

Z-1、Z-10、SFX_N、SF7等に使えるリリースコード。

● マグニファイヤーF_B

ファインダー中央部を拡大して見る接写用アクセサリー。

● オートストロボAF330FTZ

ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● オートストロボAF240FT、AF400FTZ

AF240FTZはガイドナンバー24、AF400FTZはガイドナンバー40のAFスポットビーム内蔵ズームストロボ。先幕、後幕シンクロ撮影などが可能。

● ホットシューアダプターF、延長コードF5P

AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

● AFアダプター1.7X

F2.8より明るいK_A・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

● マクロストロボAF140C

ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

アクセサリーの注意

● 「オートベローズA」はダブルリリースが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。

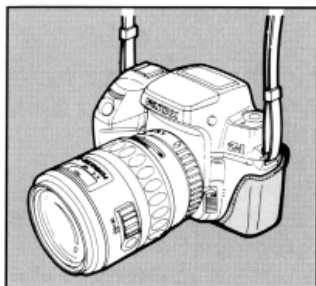
● 「PENTAX-F・300mm F4.5 ED [IF]」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがあるので、縦位置にするときにはグリップ側を上にしてください。

● 「645レンズ用アダプターK」をボディに装着する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。

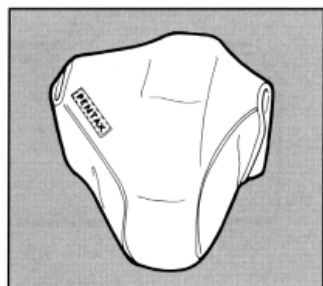
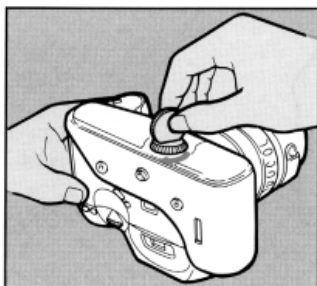
● レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディに装着する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。

● 微動装置III型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z-1では形状が合わず直接当てるとボディに傷が付くことがありますので使用しないでください。

1



2



2) ソフトケース

ソフトケース（別売）は、バックケース（底ぶた）とフロントケース（前ぶた）からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。

ソフトケースには、S、M、Lの3種類があります。

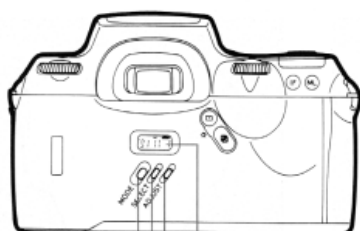
ケース	適合するF、FAレンズ
S	50mm/F1.4、F1.7、ズーム35～70mmなど
M	ズーム28～80mm、ズーム35～105mmなど
L	マクロ100mm、ズーム28～105mm、ズーム70～200mmなど

応用的な使い方

3) クォーツデートのデータ修正

データの修正方法

1. ②のSELECTボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→
時分表示のとき 時→分→：→
 2. ③のADJUSTボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。
- * ADJUSTボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。
- * データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

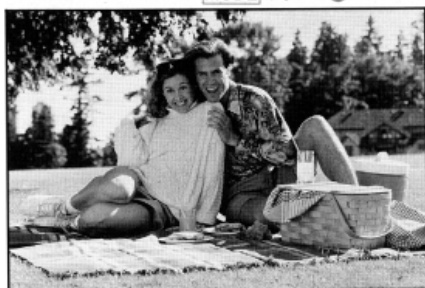


データ表示窓

ADJUSTボタン③

SELECTボタン②

MODEボタン①



※この写真の数字はハメ込み合成です。

応用的な使い方

101

「年月日」の修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
2. ③の**ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
3. 修正後は、②の**SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」の修正

1. ②の**SELECT** ボタンを押し、時・分・「：」表示のうち修正したい数字（秒の場合は「：」）を点滅させます。
2. ③の**ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
3. 秒「：」を合わせるには、③の**ADJUST** ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
4. 修正後は、②の**SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデイト使用上の注意

- * 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
- * デイトの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- * 高感度フィルム（ISO 1000以上）を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- * ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- * 修正途中（点滅表示中）は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- * クォーツデイトは、3Vリチウム電池**CR2025**を使用しています。
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。（有料）

1) 絞りとシャッター速度の効果

写したい物（被写体）の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。

IV 写真の豆知識

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときに光束（光の太さ）を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

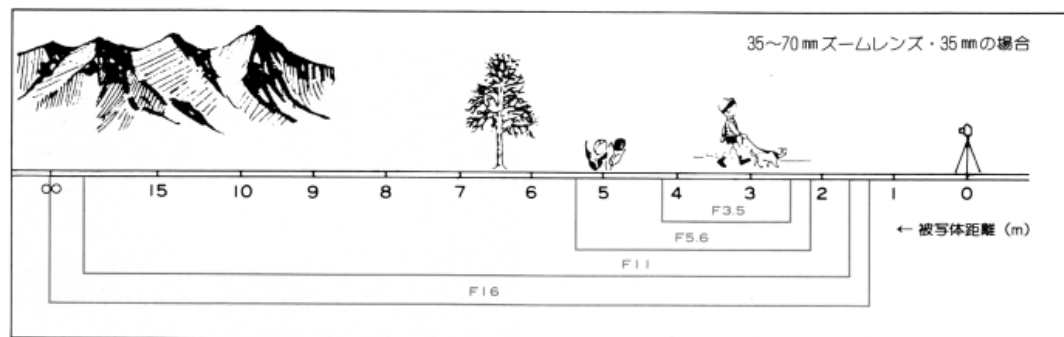
絞り F 4



絞り F 22



2) 被写界深度



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度（ピントの合う範囲）は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

絞りを変えることによってピントの合う範囲（奥行）が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上、入っていません。